

実習振り返り会に参加して



樺 亜由美

5月から始まった、各看護学実習が終了しました。

准看護学校の実習と異なる状況に最初は戸惑い、必要な看護を導き出すことに不安を感じました。しかし、実習を進めていく中で、目の前にいる対象と向き合い、今何が必要なのかを考え看護を提供していくことの大切さを学ぶ事ができました。さらに、看護の楽しさを実感することもできました。



先日、実習振り返り会がありました。自分のおこなった看護の意味づけを行い、「今大切にしたい看護」を発表しました。また、発表の中にあつた「尊厳」について、クラスメートとディスカッションをおこないました。その中で、私が考えた「尊厳をもって看護する」ということは、一人の人を「かけがえのない人」として理解し、大切に（丁寧に）看護を提供することであり、今まで私がおこなってきた看護なのだと改めて振り返ることができました。



普段なにげなく使用している言葉の意味を理解し、常に自分がおこなっている看護の意味づけをおこなうことの大切さを学ぶことができました。

11月に入ると、統合実習が始まります。統合実習では複数の対象を受持ち、臨床に即した実習を行っていきます。学びを深めて、理想とする看護師に近づけるように頑張っていきたいと思います。

